

いすゞ自動車で大規模品質保証部長を務めた大沢龍(70)はこの1年で100万円を寄付した。60歳の定年後、アジアの貧しい子供を支援する特定非営利活動法人(NPO法人)日韓アジア基金(東京・文京)に加わった。今は理事となり、会計担当として働く。

16団体に寄付

活動を通じて、貧困や病気に苦しむ子供を支援する団体が多いことを知った。どこも資金難。「夫婦で生活するだけの年金



働くということ 4

未来のために

1500兆円の6割を握る余力に期待し、若い世代60歳以上が動けば、社会が動き始めた。会を支える活動の原資は「僕ら」逃げ切れない世帯」には社会を変えな

代表、小沼大地(30)は「必要なのは世代をつなぐ仕組み」と話す。活動を求めた。柱は企業との連携による人材育成。大手企業にOBから出資を募る奨学金の創設を呼び掛ける。ギルドの会」。ビジネス

社会を支える担い手に

もたらしている。少しでも力になれば」。大沢の寄付先は16団体に及ぶ。寄付大国の米国では個人から年間20兆円が集まる。日本はその1割にも満たない。個人金融資産も預かれるおじいちゃんや子育てを終るは戦力」。理事の三浦優子(58)はこう話す。大岡朋子(65)は月1回、東京都品川区の介護施設を訪ねる。目的は認知症高齢者の所持金を確認し、顔色を見ながら日常生活に変化がないかを見守ること。財産管理を代行する成年後見人だ。認知症の高齢者はこの10年間で300万人に倍増。2025年には470万人になる。後見人の増加に伴い、潜在待機児童は80万人以上の試算もある。「地域の子供

地域の戦力に

面でもシニアは社会を支えようとしている。

も預かれるおじいちゃんや子育てを終るは戦力」。理事の三浦優子(58)はこう話す。大岡朋子(65)は月1回、東京都品川区の介護施設を訪ねる。目的は認知症高齢者の所持金を確認し、顔色を見ながら日常生活に変化がないかを見守ること。財産管理を代行する成年後見人だ。認知症の高齢者はこの10年間で300万人に倍増。2025年には470万人になる。後見人の増加に伴い、潜在待機児童は80万人以上の試算もある。「地域の子供

9月下旬、NPO法人エガリテ大手前(東京・杉並)が開いた「祖父の孫育て講座」。赤ちゃんの人形を抱いたおじいちゃんたちがおむつの替え方を練習した。希望する認可保育所に定員超過で入所できない待機児童は4月時点で約2万5千人。共働き世帯の増加に伴い、潜在待機児童は80万人以上の試算もある。「地域の子供

池光靖弘、板津直快、永井伸雄、下前俊輔、太田順尚、藤川衛、小林宏行が担当しました。

関連記事10面、電子版▼Web刊↓紙面連動に

日本経済新聞

2012年10月20日(土) 朝刊